

プロジェクト番号

07S004

**平成19年度～平成23年度「私立大学学術研究高度化推進事業」
(社会連携)研究成果報告書概要**

- 1 学校法人名 学校法人早稲田大学 2 大学名 早稲田大学
- 3 研究組織名 国際情報通信研究センター(GITI)
- 4 プロジェクト所在地 埼玉県本庄市
- 5 研究プロジェクト名 ネットワークを利用したの先端映像統合制作システムの研究(ユビキタス環境での映像特殊合成と立体映像制作研究)

6 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
安藤紘平	国際情報通信研究センター(GITI)	教授

7 プロジェクト参加研究者数 11 名8 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

9 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
安藤 紘平	GITI 教授	映像コンテンツの実証研究、システム研究	研究代表者 先端映像制作システム統括
浦野 義頼	GITI 教授	ネットワークのシステム設計	ネットワークシステム統括
河合 隆史	GITI 教授	立体映像技術研究	立体映像研究統括
(共同研究機関等) 大屋哲男	GITI 客員 研究員	映像コンテンツの実証研究 ネットワークシステムの実証	研究者
(モーターライズ) 樋口真嗣	GITI 客員 教授	映像コンテンツの実証研究 ネットワークシステムの実証	研究者

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
立体映像技術研究	GITI 客員研究員	柴田 隆史	研究員

(変更の時期:平成18年8月1日)

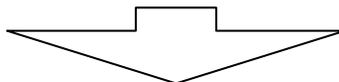
旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
ネットワーク技術	琉球大学	玉城 史朗	研究員

プロジェクト番号

07S004

(変更の時期:平成21年4月1日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
GITI 助教	GITI 助教	菅沼 睦	研究員

(変更の時期:平成 18年 8月 1日)

新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
GITI 客員研究員	GITI 客員研究員	片岡 宏二	研究員

(変更の時期:平成 21年 4月 1日)

10 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

光ファイバー回線を介して、無歪みの超高精細映像素材データを送信する手法を検討し、本庄の芸術科学センターと、撮影所、ポストプロダクション、現像所など、個々の設備、技術を有機的に結びつけ、設備、費用、労力、時間といったコストを低減しながら最先端映像技術を駆使した日本独自のデジタル映画制作が出来るシステムの研究を行う。また、立体映像技術、バーチャルリアリティ技術とVFX技術を統合した合成・再生処理手法を検討し、デジタルシネマにおける新たな映像制作技法を開発、実際の映画の特殊映像合成にて実証する。その際、実際の映画や映像制作の撮影・特殊合成・編集などを自治体、産業団体との連携で本庄市に誘致することで、産学連携の一つの形とする。また、市民、学生の協力のもとで、地場映像産業の育成、人材育成、地域活性化をもたらすとともに、アジアとの連携も視野に入れる。

結果、最先端映像制作とその保護・活用に資する日本独自のワークフローを形成、市場規模、予算条件を超えてハリウッドに対抗できるデジタルシネマ・最先端映像の発信基地としての基盤を整備する。あわせて、次世代を担う人材育成と、映像による町づくりの活動により地域の活性化を図る。

(2) 研究組織

早稲田大学国際情報通信研究センターを核に、東宝、イマジカ、東京現像所、マリンポスト、モーターライズ、オムニバスジャパン、ソニーPCL、白組、ピクチャーエレメント、エムソフトをネットワークで結び、研究課題ごとに、東宝、NHK、フジテレビジョン、ピクチャーエレメント、モーターライズ、特撮研究所、エム・ソフトなどと連携して研究を進めている。

(3) 研究施設・設備等

早稲田大学芸術科学センター(埼玉県本庄市)、東宝スタジオ(東京都世田谷区成城)内の安藤研究室にサーバーを持ち、東宝、イマジカ、東京現像所、マリンポスト、モーターライズ、オムニバスジャパン、ソニーPCL、白組、ピクチャーエレメント、エムソフトと閉域ネットワークシステムを構築している。

また、早稲田大学芸術科学センターには、撮影スタジオ研究室、音声加工研究室、オンライン合成研究室、オンライン編集研究室、総合調整研究室があり、デジタル撮影機材、特殊

映像合成機材、カラーリング機材、デジタル編集機材などが設備されている。

また、東宝スタジオ研究室、早稲田安藤研究室には、撮影装置、編集装置のほか、立体映像の研究用コンピュータが設備されている。

(4) 研究成果の概要

研究プロジェクトの計画や目的・意義と関連づけて、当初の目標をどれだけ達成したか記述するとともに、新たに得られた知見などについても具体的に記述してください。

<優れた成果があがった点>

■映画制作ブロードバンドネットワークシステムの研究開発

産学官の連携による日本独自のネットワークを利用した映像制作システムを構築し、それが実際の公開映画やテレビ映像に数多く応用された成果は、極めて大きい。これらが、日本映画映像産業の底力を、確実に押し上げている。

これまでのこの研究の成果は、テレビドラマ『しゃばけ』、『うそうそ』、『黒部の太陽』、『のだめカンタービレ 最終楽章 特別編』、『MM9』、映画『アマルフィ』、映画『のだめカンタービレ』、映画『西遊記』、映画『私は貝になりたい』、映画『ザ・マジックアワー』、映画『隠し砦の三悪人』、映画『死刑台のエレベーター』、映画『ランウェイ☆ビート』、映画『太平洋の奇跡 フォックスと呼ばれた男』、映画『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』、映画『アンダルシア 女神の報復』、映画『ステキな金縛り』、映画『のぼうの城』など、日本のテレビ、映画を代表する作品における成果として現れている。

遠隔の映画制作拠点間を接続するブロードバンドネットワークシステムについて、21年度に次世代ブロードバンドネットワークである NGN(Next Generation Network)回線への変更を行ったが、NGN の利点を生かして利用料金の安い NGN 回線を複数束ね、より高いデータ転送速度を得ることのできるデータ伝送技術を導入し、本年までに早稲田大学 芸術科学センターから、東宝砧撮影所、マジカ、東京現像所、オムニバスジャパン、ピクチャーエレメント、マリンプスト、モータライズ、白組、SONY PCL の計9拠点(管理拠点を加え10か所)を接続するネットワークシステムを構築した。今後は、これらに加えて、東映株式会社、角川映画株式会社、川口スキップシティの3拠点を新たに構築すべく検討している。

■インターネットを使った高帯域デジタルシネマデータのセキュアな転送に関する研究

また、このネットワークシステムの外部から閉域網内へのデータ伝送機能は、これからの映像制作にとって極めて有用なシステムであり、これらについて実験研究がなされた。

これまでの撮影素材の運搬に関しては、フィルムやハードディスクを、直接、人の手によって飛行機や車などで閉域網の拠点に輸送する手段を取っていたが、この伝送システムが確立されると、撮影素材を、迅速に安全に低コストで、しかも、オリジナルは現場に残り、その複製が伝送されるという二重の安全策が施されるために極めて有効な手段である。

映画『太平洋の奇跡ーフォックスと呼ばれた男ー』では、撮影場所であるタイのラヨンと芸術科学センターをグローバル IP ネットワークで結び、その後、当閉域ネットワークの高速回線を利用し、芸術科学センターで編集合成、そのデータを東宝スタジオへ送り、東宝でオフライン調整しなおされたデータを再度本庄の芸術科学センターに転送することで、本編集と音楽録音を同時に行う試みを実証された。この成果は、2011年2月に東宝系にて公開上映されて実証された。これら研究実施にあたっては、ピクチャーエレメント、東宝、シネバザール、エムソフト、特撮研究所、などが委託あるいは協力で連携している。

また、映画『のぼうの城』でも、撮影現場である北海道から同様のネットワークを利用した新しい映像制作のワークフローが構築され、実際の映像制作、合成・編集に利用された。この成果は、2012年9月に東宝系にて公開上映されることで実証される予定である。

これらのネットワークシステムの外部から閉域網内へのデータ伝送機能は、これからの映像制作にとって極めて有用なシステムであり、各方面からの要望も多いため、継続的な実用化の具体的手法を検討している。また今後、外部から閉域内への一方通行だけではなく、閉域内から外部への伝送についての可能性についても検討する。

■次世代の映像表現および映像制作に関する研究

実写やコンピュータグラフィックスを用いての特殊映像合成についても、ドラマ『のだめカンタービレ 最終楽章 特別編』、ドラマ『MM9』、映画『ランウェイ☆ビート』、映画『太平洋の奇跡 フォックスと呼ばれた男』、映画『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』、映画『アンダルシア 女神の報復』、映画『ステキな金縛り』、映画『のぼうの城』などにおいても、モーションコントロールカメラ、モーションキャプチャー、インフェルノ、スモーク、ラスターなどを利用した新しいデジタルコンテンツの制作手法について実証実験が行われた。

また、立体映像表現に関して、プロモーションビデオ『北アルプス 立山・黒部峡谷を訪ねて 3D』を共同研究、主観評価実験を行った。具体的には、3次元コンピュータグラフィック(3DCG)のステレオ撮影制作されたコンテンツの、モニタテストを80人規模で実施した。3D映像の立体感や自然さ、視覚的な負担の比較や、観察位置や観察経験の与える影響について検討を行い、有益な知見を得た。

これら研究実施にあたっては、ピクチャーエレメント、シネバザール、(株)特撮研究所、モータライズ、エムソフトなどが委託あるいは協力で連携している。

また、ノンブルーバックにおける合成マスク切り出しの研究用映像が実際の映画『隠し砦の三悪人』をはじめ『アマルフィ 女神の報酬』『のだめカンタービレ 最終楽章』『死刑台のエレベーター』『太平洋の奇跡 フォックスと呼ばれた男』『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』『アンダルシア 女神の報復』『ステキな金縛り』『のぼうの城』などに実用実験がなされた。

■メタデータの管理技術に関する研究

マルチメディア情報におけるメタデータの利用に関して検討を行った。具体的には、写真情報に付随するメタデータの自動生成手法、メタデータスキーマ間の類似度を記述したユニバーサル検索手法の検討、オントロジの自動構築に関する基礎的検討である。今後の課題としては、これらを実際のコンテンツ制作の場と有機的に結びつける手法の検討が挙げられる。

■映像制作による地場映像産業の育成、人材育成、地域活性化に関する研究

フィルムコミッション、地場産業などの協力により、市民と大学院生による映像制作と先端映像技術、表現手法の実験、研究が行われた。

映像作品『Water』『雷蔵の笑い水』『マンゴジラ』『カンフーかば』などによる表現手法の実験により、人材育成と地域の活性化が進捗した。

また、本庄地域や海外映像教育機関との連携による地場産業育成、人材育成の事業としての『セイキロスさんとわたし』、『阿房ウイスキー』、『禅武合一 少林功夫』、『Love

『Suicides』、『Censored』、『天道虫の涙』、『Kingyo』、『死んだガイジン』、『The Tiger Factory』、『Water』、『Thief』、『Tear Love Smile』、『Inhalation』、『Exhalation』などの映像作品は、本庄を拠点として、早稲田大学芸術科学センター、東宝スタジオ、ソニーPCL、東京現像所、北京電影学院、マレーシア・グリーンライトピクチャーズなどを使って製作された。なお、これらの作品は、ヴェネチア国際映画祭、カンヌ国際映画祭、プサン国際映画祭、東京国際映画祭、ロッテルダム国際映画祭 2011、香港国際映画祭 2011、クレルモンフェラン国際短編映画祭 2011、などに正式招待され、入選或いは受賞した。また、映像文化振興連盟アワードなどにて、部門賞を受賞し、確実に若い人材の育成と地域の活性化がなされた。

これら研究実施にあたっては、本庄市商工会議所、フィルムコミッション、エムソフト、ピクチャーエレメント、北京電影学院、東宝スタジオ、ソニーPCL、マレーシア・グリーンライトピクチャーズ、(株)早稲田インターナショナルなどが委託あるいは協力で連携している。

<問題点>

オールジャパンのネットワークシステムの構築を目指しているが、産業界内では、ビジネス上コンペティターにあたる企業同士が同じネットワーク上でコンテンツ制作にあたることは、かなりの抵抗感を持つ。この問題については、プロジェクト毎に固有のアクセスコードを設定、厳密にそれぞれの機密保持は保たれることを丁寧に説明し、企業同士の連携を促している。

また、公開作品を対象としているため、著作権法上むやみに研究成果を公表しづらい映像が多分にある。それらについては、著名な俳優の出演部分は削除したり、問題のある画像・音声などは、研究後削除を余儀なくされる場合がある。それらの課題については、発売 DVDなどを成果物とすることで対処している。

<評価体制>

(研究プロジェクトの目標等に照らした自己評価の実施や、その結果を研究費等の資源の配分へ反映させるためのルールの適切な設定、また、本プロジェクトに係る費用対効果(かけた費用に見合う効果が見られるか)について、どのように分析しているか。また、それらについて、外部(第三者)による評価を受ける体制ができているか等について記述してください。)

東宝、東宝スタジオ、ソニーPCL、ピクチャーエレメント、マリンプスト、東京現像所、モーターライズ、イマジカ、オムニバスジャパン、白組、エムソフトで構成される『閉域ネットワークシステムおよび産学連携の映像製作プロジェクト』委員会を編成し、研究成果に対する評価および今後の当システムの留意事項に関するご意見をいただいた。これらについて、下記にまとめる。

- 外部企業とのネットワークシステム構築による新しいワークフローによるコンテンツ制作は、極めて独自性があり、映像産業にとっても大変有意義な事業として評価できる。
- また、地場の映像産業の育成、若い人材の育成という目的に向けて、学生と地域市民、海外大学などとのコラボレーションによる共同映像制作活動が着実に行われ、成果作品がヴェネチア、カンヌといった第一線の国際映画祭などにおいて評価されたことは、極めて大きな具体的成果に結びついている。
- 『太平洋の奇跡』『のぼうの城』などで実験試用された、外部から閉域網へのデータ伝送機能は、これからの映像制作にとって極めて有用なシステムであり、是非、実用化の具体的方法をシミュレーションしてほしい。
- また、この伝送は上り回線のみでのテストであって、下りには対応していないが、将来的

には、下りにも対応を希望する。

- 高度化推進事業は、本年度で終了するが、このネットワークシステムは、コンペティター企業の垣根を越えて有用なシステムであるから、この委員会構成企業を中心に、今後の運用を考えたい。

なお、上記の第三項目以下については、東宝、エムソフト、早稲田大学を中心に、今後の具体的な方法を自力で考えることで、意見が集約された。

<研究期間終了後の展望>

(本プロジェクト終了後における研究の継続の有無、有の場合は今後の研究方針、無の場合は当該研究施設・装置・設備の活用方針を記述してください。)

Bフレッツ回線から NGN 回線を利用した閉域ネットワークシステムに移行したことで、より多くの拠点との接続が可能となり、安価で安全、迅速な配信が望めるネットワークシステムの構築に研究目標を発展できつつあると期待している。研究期間終了後においては、閉域ネットワークに参加している各参加企業がネットワーク維持のための経費を分担支出することで、継続して研究し実用化にこぎつけるべく話し合いが持たれている。また、新たな参加希望の企業においても、新規加入のための経費については自費で行うべく検討している。

また、現在開発中の先端映像技術研究「デジタルシネマにおける、ノンブルーバック合成の研究」による合成マスク切り出し手法をより発展させた「動き追従による合成応用技術」の開発は、ノンブルーバックにおけるマツ信号の自動切り出し作業効率を大幅に促進する可能性が期待されている。従来、多くのスタッフを投入し、手作業によって膨大な時間をかけて行っていた作業が、この研究成果により非常に短時間で完成することは、映画撮影の根本的な手法変革をもたらす可能性がある。すでに、『アマルフィ 女神の報酬』『のだめカンタービレ 最終楽章』『死刑台のエレベーター』『太平洋の奇跡 フォックスと呼ばれた男』『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』『アンダルシア 女神の報復』『ステキな金縛り』『のぼうの城』などに実用されて、実用化の段階となった。

また、『太平洋の奇跡』『のぼうの城』などで実験試用された、外部から閉域網へのデータ伝送機能は、これからの映像制作にとって極めて有用なシステムであり、エムソフトを中心に実用化の具体的な方法をシミュレーションする。また、この伝送は上り回線のみのものであったので、下りにについても企業として検討する。

<研究成果の副次的効果>

(研究成果の活用状況又は今後の活用計画(実用化・企業化の見通しや、特許の申請があればその申請状況・取得状況等)について、記述してください。)

上記のように、研究成果はそのまま実用化され、今後の映画製作のワーク・フローに組み込まれ、日本の映画製作システムの変革を促すと思われる。しかも、コンペティターの垣根を越えてオールジャパンのネットワークシステムとして発展する可能性を秘めている。

研究成果が映画・ドラマという性質を持っており、公開・放送終了後、DVD 化され、副次的にレンタルされることにより、公開・放送期間に限定されることなく、長期にわたって研究成果を公開し、確認することが可能である。

11 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 先端映像技術 (2) 閉域ネットワーク (3) 産学官連携
 (4) 日本独自のシステム (5) 地域と大学との連携 (6) 立体映像
 (7) 人材育成 (8) 映画手法変革

12 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

(以下の各項目が網羅されていれば、枠にはこだわらなくてもよい。)

<雑誌論文>

著者名	論文標題			
Supheakmongkol Sarin, Toshinori Nagahashi, Tadashi Miyosawa, and Wataru Kameyama	"On the Design and Exploitation of User's Personal and Public Information for Semantic Personal Digital Photograph Annotation"			
雑誌名	レフェリー有 無	巻	発行年	ページ
Advances in Multimedia		Vol. 2008	平成20年	Article ID 592690, 16 pages

著者名	論文標題			
柴田隆史, 李在麟, 黄盛俊, 河合隆史, 中村哲也, 星幸一	セカンドライフを活用した立体映像コンテンツの制作と呈示			
雑誌名	レフェリー有 無	巻	発行年	ページ
人間工学		44, 特別号	平成20年	pp. 268-269

著者名	論文標題			
柴田隆史, 李在麟, 黄盛俊, 河合隆史, 中村哲也, 星幸一	セカンドライフにおける立体視コンテンツの利活用			
雑誌名	レフェリー有 無	巻	発行年	ページ
3D映像		22, 3	平成20年	pp. 46-51

著者名	論文標題			
オン コックメン, 大野 雄也, 亀山 涉	"瞳孔径・視線と心拍情報を用いた映像要約方法とその評価"			
雑誌名	レフェリー有 無	巻	発行年	ページ
電子情報通信学会論文誌 A		Vol. J93-A, No. 11	平成22年	pp. 697-707

プロジェクト番号

07S004

著者名	論文標題			
Hongyan Gao, Hidehiro Kanemitsu and Yoshiyori Urano	A User-Adaptive Symbol Presentation for Non-Verbal Communication			
雑誌名	レフェリー有 無	巻	発行年	ページ
Proceedings of 10th International Conference on Intelligent Systems Design and Applications (ISDA 2010)			平成22年	pp. 801-806

著者名	論文標題			
河合隆史	立体映像コンテンツと認知・体験			
雑誌名	レフェリー有 無	巻	発行年	ページ
電子情報通信学会誌		Vol. 93, No. 5	平成22年	pp. 402-405

著者名	論文標題			
河合隆史	3D元年のコンテンツ制作とヒューマンファクターズ			
雑誌名	レフェリー有 無	巻	発行年	ページ
壇国大学校メディアコンテンツ研究院国際学術大会誌			平成22年	pp. 1-12

著者名	論文標題			
阿部信明, 太田啓路, 河合隆史, 安藤紘平, 柿沼司, 藤田和子, 工藤尚美	2D/3D 変換を用いた博物館向け立体視コンテンツの主観評価			
雑誌名	レフェリー有 無	巻	発行年	ページ
日本人間工学会関東支部第40回大会講演集			平成22年	pp. 170-171

著者名	論文標題			
羅維, 金光永煥, 王歆, 中里秀則	完全分散型P2P-Gridにおけるピアグループピング手法の提案			
雑誌名	レフェリー有 無	巻	発行年	ページ
電子情報通信学会技術研究報告		no. CS2011-27	平成22年	pp. 97-102

著者名	論文標題			
-----	------	--	--	--

プロジェクト番号

07S004

安藤紘平	映画と私と寺山修司			
雑誌名	レフェリー有 無	巻	発行年	ページ
寺山修司学会誌		第四号	平成23年	

著者名	論文標題			
安藤紘平	特集論文 「映像作家にとってのデジタルコンテンツと文化」			
雑誌名	レフェリー有 無	巻	発行年	ページ
日本知財学会誌 第7巻		Vol. 7 NO. 3	平成23年	

著者名	論文標題			
Nobuaki Abe, Keiji Ohta, Takashi Kawai, Kohei Ando, Tsukasa Kakinuma, Kazuko Fujita, Naoko Kudo	"Ergonomic evaluation of stereoscopic content for a museum exhibition"			
雑誌名	レフェリー有 無	巻	発行年	ページ
Journal of Information Display	有	Vol. 12, No. 3	平成23年	

著者名	論文標題			
小井土慶久, 河合隆史	"局所立体映像表現の認知特性の評価"			
雑誌名	レフェリー有 無	巻	発行年	ページ
人間工学		Vol. 47, 特別号	平成23年	pp. 252-253

著者名	論文標題			
平原正広, 白石 咲, 河合隆史, 他	"立体映像コンテンツの視差角操作に伴う品質 評価"			
雑誌名	レフェリー有 無	巻	発行年	ページ
人間工学		Vol. 47, 特別号	平成23年	pp. 260-261

<DVD>

監督名	出版者		
澤田鎌作	東宝ビデオ		
書名	発行年	総時間 (分)	

プロジェクト番号

07S004

西遊記	平成19年	120分
-----	-------	------

監督名	出版者		
三谷幸喜	フジテレビ／東宝		
書名	発行年	総時間(分)	
ザ・マジックアワー	平成20年	136分	

監督名	出版者		
樋口真嗣	バップ／東宝		
書名	発行年	総時間(分)	
隠し砦の三悪人 THE LAST PRINCESS	平成20年	118分	

監督名	出版者		
福澤克雄	ジェネオン・ユニバーサル		
書名	発行年	総時間(分)	
私は貝になりたい	平成21年	139分	

監督名	出版者		
犬童一心	東宝ビデオ		
書名	発行年	総時間(分)	
ゼロの焦点	平成22年	131分	

監督名	出版者		
豊田利晃	メディアファクトリー		
書名	発行年	総時間(分)	
蘇りの血	平成22年	83分	

監督名	出版者		
武内英樹	アミューズソフト		
書名	発行年	総時間(分)	
のだめカンタービレ 最終楽章 前編	平成22年	121分	

監督名	出版者		
押井 守	ジェネオン・ユニバーサル		
書名	発行年	総時間(分)	
アサルトガールズ	平成22年	70分	

プロジェクト番号

07S004

監督名	出版者		
	NHKエンタープライズ		
書名	発行年	総時間 (分)	
NHKスペシャル メガクエイク	平成22年	205分	

監督名	出版者		
増田久雄	東映ビデオ		
書名	発行年	総時間 (分)	
E. YAZAWA ROCK	平成22年	90分	

監督名	出版者		
加藤雄大	エイベックス		
書名	発行年	総時間 (分)	
手のひらの幸せ	平成22年	103分	

監督名	出版者		
武内英樹	アミューズソフト		
書名	発行年	総時間 (分)	
のだめカンタービレ 最終楽章 後編	平成22年	123分	

監督名	出版者		
安藤モモ子	ハピネット		
書名	発行年	総時間 (分)	
カケラ	平成22年	107分	

監督名	出版者		
柴田一成	ジェネオン・ユニバーサル		
書名	発行年	総時間 (分)	
リアル鬼ごっこ2	平成22年	107分	

監督名	出版者		
伊藤俊也	角川映画		
書名	発行年	総時間 (分)	
ロストクライム 閃光	平成22年	118分	

監督名	出版者		
-----	-----	--	--

プロジェクト番号

07S004

藤森雅也	ハピネット		
書名	発行年	総時間 (分)	
おまえうまそうだな	平成23年	89分	

<映画>

監督名	配給会社		
澤田鎌作	東宝		
映画名	公開年	総時間 (分)	
西遊記	平成19年	120分	

監督名	公開		
糸曾賢志, 亀淵裕	ゆうばり国際ファンタスティック映画祭		
映画名	公開年	総時間 (分)	
セイキロスさんとわたし	平成19年	15分	

監督名	配給会社		
樋口真嗣	東宝		
映画名	公開年	総時間 (分)	
隠し砦の三悪人 THE LAST PRINCESS	平成20年	118分	

監督名	配給会社		
三谷幸喜	東宝		
映画名	公開年	総時間 (分)	
ザ・マジックアワー	平成20年	136分	

監督名	配給会社		
福澤克雄	東宝		
映画名	公開年	総時間 (分)	
私は貝になりたい	平成20年	139分	

制作	公開		
早稲田大学・北京電影学院	早稲田大学国際情報通信研究センターBNC フォーラム		
映画名	公開年	総時間 (分)	
禅武合一 少林功夫	平成21年	20分	

監督名	公開		
-----	----	--	--

プロジェクト番号

07S004

河原伸亮	早稲田大学/本庄市連携映像実証作品「阿房ウイスキー」上映会、バルト9「8大学映画祭」、Student Film6 in ODAIBA		
映画名	公開年	総時間 (分)	
阿房ウイスキー	平成21年	75分	

監督名	公開		
エドモンド・楊	バルト9「8大学映画祭」、 第66回ヴェネツィア国際映画祭正式招待上映		
映画名	公開年	総時間 (分)	
kingyo	平成21年	25分	

監督名	配給会社		
土井裕泰	東宝		
映画名	公開年	総時間 (分)	
ハナミズキ	平成22年	128分	

監督名	配給会社		
瀧本智行	プレノンアッシュ		
映画名	公開年	総時間 (分)	
スーポオペラ	平成22年	119分	

監督名	配給会社		
杉田成道	ワーナー・ブラザース		
映画名	公開年	総時間 (分)	
最後の忠臣蔵	平成22年	133分	

監督名	配給会社		
緒方 明	角川映画		
映画名	公開年	総時間 (分)	
死刑台のエレベーター	平成22年	111分	

監督名	配給会社		
トラン・アン・ユン	東宝		
映画名	公開年	総時間 (分)	
ノルウェイの森	平成22年	133分	

監督名	配給会社		
-----	------	--	--

プロジェクト番号

07S004

アベ・ユーイチ	松竹		
映画名	公開年	総時間 (分)	
ウルトラマンゼロ ザ・ムービー	平成22年	108分	

監督名	公開		
エドモンド・楊	Cannes International Film Festival 2010、 バンクーバー国際映画祭 2010、 プサン国際映画祭 2010、 東京国際映画祭 2010、 “CON-CAN Movie Festival 安藤研究室カンヌ国際映画祭凱旋上映会”		
映画名	公開年	総時間 (分)	
The Tiger Factory	平成22年	88分	

監督名	公開		
エドモンド・楊	プサン国際映画祭 2010、 東京国際映画祭 2010、 GITS/GITI 公開研究発表会 2010 早稲田文化週間 安藤紘平研究室 作品上映会		
映画名	公開年	総時間 (分)	
Inhalation	平成22年	17分	

監督名	公開		
エドモンド・楊	ドバイ国際映画祭 2010		
映画名	公開年	総時間 (分)	
Exhalation	平成22年	22分	

監督名	公開		
エドモンド・楊	Gulf International Film Festival 2010、 SKIP City International D-Cinema Festival 2010 (in competition)、		
映画名	公開年	総時間 (分)	
Kingyo	平成22年	25分	

監督名	公開		
エドモンド・楊	フジテレビ「2010 student Film 7 in ODAIBA」		
映画名	公開年	総時間 (分)	
Love Suicides	平成22年	13分	

監督名	公開		
-----	----	--	--

プロジェクト番号

07S004

パフラック・コン	23rd Singapore international Film Festival、 1st Doi Saket International Film Festival (Thailand)		
映画名	公開年	総時間 (分)	
天道虫の涙	平成22年	12分	

監督名	公開		
パフラック・コン	13th Shanghai International Film Festival (China)、 6th Singapore Short Film Festival (Singapore)、 14th Thai Short Film and Video Festival (Thailand)、 1st Doi Saket International Film Festival (Thailand)、 12th Jakarta International Film Festival (Indonesia)		
映画名	公開年	総時間 (分)	
Censored	平成22年	16分	

監督名	公開		
パフラック・コン	14th Puchon International Fantastic Film Festival (South Korea)、 2010 Fantasy Filmfest (Germany)、 映文連アワード2010 (日本)、 7th Hong Kong Asian Film Festival (Hong Kong)、 12th Jakarta International Film Festival (Indonesia)、 GITS/GITI 公開研究発表会 2010 早稲田文化週間 安藤紘平研究室 作品上映会		
映画名	公開年	総時間 (分)	
死んだ外人	平成22年	12分	

監督名	公開		
パフラック・コン	23rd exground Film Festival (Germany)		
映画名	公開年	総時間 (分)	
The Running Girl	平成22年	4分	

監督名	公開		
黄宇哲、何文薰	47th Taipei Golden Horse Film Festival FTTP (Film and TV film Project Promotion)		
映画名	公開年	総時間 (分)	
I AM BEAUTIFUL	平成22年	120分	

プロジェクト番号

07S004

監督名	公開		
黄宇哲、何文薰	Concan Film Festival (Japan)、 Hong Kong International Film Festival Short Film Competition, Hong Kong, (China)、 GITS/GITI 公開研究発表会 2010 早稲田文化週間 安藤紘平研究室 作品上映会		
映画名	公開年	総時間 (分)	
WATER	平成 2 2 年	1 5 分	

監督名	公開		
黄宇哲、何文薰	Torino Film Lab, Script and Pitch Workshop, (Italy, Sweden, France)、 ACE-HAF Production Lab, Hong Kong International Film Festival, (China)		
映画名	公開年	総時間 (分)	
Tear Love Smile	平成 2 2 年	1 2 0 分	

監督名	公開		
品川朋彦	GITS/GITI 公開研究発表会 2010 早稲田文化週間 安藤紘平研究室 作品上映会		
映画名	公開年	総時間 (分)	
すてろう神	平成 2 2 年	6 分	

監督名	公開		
品川朋彦	GITS/GITI 公開研究発表会 2010 早稲田文化週間 安藤紘平研究室 作品上映会		
映画名	公開年	総時間 (分)	
unwell	平成 2 2 年	6 分	

監督名	公開		
飯塚諒	GITS/GITI 公開研究発表会 2010 早稲田文化週間 安藤紘平研究室 作品上映会		
映画名	公開年	総時間 (分)	
さすらい	平成 2 2 年	1 8 分	

監督名	公開		
パーセル・スティーブン	GITS/GITI 公開研究発表会 2010 早稲田文化週間 安藤紘平研究室 作品上映会		
映画名	公開年	総時間 (分)	
スティーブンのそれでも恋したのは江の島	平成 2 2 年	9 分	

監督名	公開		
仁科賢人	GITS/GITI 公開研究発表会 2010 早稲田文化週間		

プロジェクト番号

07S004

安藤紘平研究室 作品上映会		
映画名	公開年	総時間 (分)
えのたんとアイちゃんの江ノ島探訪	平成22年	10分

監督名	公開	
久保内俊介	GITS/GITI 公開研究発表会 2010 早稲田文化週間 安藤紘平研究室 作品上映会	
映画名	公開年	総時間 (分)
Mr. Rice の就職活動	平成22年	5分

監督名	公開	
飯塚諒	GITS/GITI 公開研究発表会 2010 早稲田文化週間 安藤紘平研究室 作品上映会	
映画名	公開年	総時間 (分)
マンゴジラ	平成22年	2分

監督名	公開	
品川朋彦	GITS/GITI 公開研究発表会 2010 早稲田文化週間 安藤紘平研究室 作品上映会	
映画名	公開年	総時間 (分)
Kung-fu KABA	平成22年	2分

監督名	公開	
パフラック・コン、品川朋彦、 エドモンド・楊、パーセル・ス ティーブン	GITS/GITI 公開研究発表会 2010 早稲田文化週間 安藤紘平研究室 作品上映会	
映画名	公開年	総時間 (分)
【PRADA】主催「Young Director's Contest」入賞作品	平成22年	5分

監督名	公開	
松下エリカ	GITS/GITI 公開研究発表会 2010 早稲田文化週間 安藤紘平研究室 作品上映会	
映画名	公開年	総時間 (分)
猿	平成22年	14分

監督名	公開	
花山陽	GITS/GITI 公開研究発表会 2010 早稲田文化週間 安藤紘平研究室 作品上映会	
映画名	公開年	総時間 (分)
Memory Melody	平成22年	15分

プロジェクト番号

07S004

監督名	配給会社		
平山秀幸	東宝		
映画名	公開年	総時間 (分)	
太平洋の奇跡 フォックスと呼ばれた男	平成23年	128分	

監督名	配給会社		
大谷健太郎	松竹		
映画名	公開年	総時間 (分)	
ランウェイ・ビート	平成23年	126分	

監督名	配給会社		
田中 誠	東宝		
映画名	公開年	総時間 (分)	
もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーのマネジメントを読んだら	平成23年	125分	

監督名	配給会社		
瀧本智行	東宝		
映画名	公開年	総時間 (分)	
星守る犬	平成23年	128分	

監督名	配給会社		
西谷 弘	東宝		
映画名	公開年	総時間 (分)	
アンダルシア 女神の報復	平成23年	125分	

監督名	配給会社		
SABU	ショウゲート		
映画名	公開予定	総時間 (分)	
うさぎドロップ	平成23年	114分	

監督名	配給会社		
佐々部 清	角川映画		
映画名	公開予定	総時間 (分)	
日輪の遺産	平成23年	134分	

監督名	配給会社		
-----	------	--	--

プロジェクト番号

07S004

三谷幸喜	東宝		
映画名	公予定定	総時間 (分)	
ステキな金縛り	平成23年	142分	

監督名	公開		
安藤紘平	Light Cone (Scratch) Nb of screening		
映画名	公開年	総時間 (分)	
LIKE A PASSING TRAIN 2	平成23年	7分	

監督名	公開		
エドモンド・楊	ロッテルダム国際映画祭 2011、 Jeonju International Film Festival 2011、 Curtas Vila de Conde International Short Film Festival 2011、 Hong Kong InDpanda Short Film Festival 2011		
映画名	公開年	総時間 (分)	
Exhalation	平成23年	22分	

監督名	公開		
エドモンド・楊	クレルモンフェラン国際短編映画祭 2011、 San Francisco International Asian American Film Festival 2011、 Shanghai International Film Festival 2011、 Guanajuato International Short Film Festival 2011、 Hong Kong InDpanda Short Film Festival 2011、 Vladivostok International Film Festival 2011、 Festival Séquence court-métrage 2011		
映画名	公開年	総時間 (分)	
Inhalation	平成23年	17分	

監督名	公開		
エドモンド・楊	Rotterdam International Film Festival 2011、 Geneve Black Movie Film Festival 2011、 Fribourg International Film Festival 2011、 Las Palmas de Gran Canaria Film Festival 2011、 Canberra Cinematheque 2011、 Los Angeles Asian Pacific Film Festival 2011、 Pittsburgh Silk Screen 2011、 St. Petersburg's Film Festival 2011		
映画名	公開年	総時間 (分)	

プロジェクト番号

07S004

The Tiger Factory	平成23年	88分
-------------------	-------	-----

監督名	公開		
パフラック・コン	Yubari International Fantastic Film Festival 2011		
映画名	公開年	総時間(分)	
死んだ外人	平成23年	12分	

監督名	公開		
パフラック・コン	7th InDPanda International Short Film Festival、		
映画名	公開年	総時間(分)	
Censored	平成23年	16分	

<放送>

演出者名	放送局		
宮本理江子	フジテレビ		
番組名	公開年	総時間(分)	
しゃばけ	平成19年	108分	

演出者名	放送局		
光野道夫	フジテレビ		
番組名	公開年	総時間(分)	
うそうそ	平成20年	108分	

演出者名	放送局		
河毛俊作	フジテレビ		
番組名	公開年	総時間(分)	
黒部の太陽	平成21年	300分	

演出者名	放送局		
武内英樹	フジテレビ		
番組名	公開年	総時間(分)	
のだめカンタービレ 最終楽章 特別編	平成22年	130分	

演出者名	放送局		
樋口真嗣 他	毎日放送		

プロジェクト番号	07S004
----------	--------

番組名	公開年	総時間(分)
MM9	平成22年	30分×13本

演出者名	放送局	
落合正幸	NHK	
番組名	公開年	総時間(分)
妖しき文豪怪談 片腕	平成22年	44分

演出者名	放送局	
永山耕三	フジテレビ	
番組名	公開年	総時間(分)
球形の荒野	平成22年	120分×2本

演出者名	放送局	
村川 透	テレビ朝日	
番組名	公開年	総時間(分)
棟居刑事 背徳の刺繍	平成23年	120分

<プロモーションビデオ>

演出者名	製作社	
	関西電力	
番組名	公開年	総時間(分)
北アルプス 立山・黒部峡谷を訪ねて 3D	平成22年	5分×7本

<学会発表>

発表者名	発表タイトル	
Supheakmungkol Sarin, Toshinori Nagahashi, Tadashi Miyosawa, Wataru Kameyama	“Exploiting Users’ Personal and Public Information for Personal Photo Annotation”	
学会名	開催地	発表年月
2007 International Conference on Multimedia and Expo	中国	平成19年7月

発表者名	発表タイトル	
秋元良仁, 亀山涉	“博物館情報を用いたメタデータスキーマ統合機構の実装と評価”	
学会名	開催地	発表年月
情報処理学, デジタルドキュメント研究会	日本	平成19年7月

プロジェクト番号

07S004

発表者名	発表標題		
秋元良仁, 亀山渉	“博物館情報におけるメタデータスキーマ間の類似性に関する一考察”		
学会名	開催地	発表年月	
情報科学技術フォーラム FIT 2007	日本	平成19年9月	

発表者名	発表標題		
Supheakmongkol Sarin, 長橋敏則, 三代沢正, 亀山渉	“Semi-automatic Annotation of Personal Digital Photographs with W6H2 Metadata”		
学会名	開催地	発表年月	
情報科学技術フォーラム FIT 2007	日本	平成19年9月	

発表者名	発表標題		
糸曾賢志, 亀淵裕, 元村直樹, 安藤紘平, 柴田隆史	“「早稲田大学ヴァーチャル映像スコア」プランとマシニマ制作”		
学会名	開催地	発表年月	
2007年度GITS/GITI公開研究発表会	日本	平成19年10月	

発表者名	発表標題		
李在麟, 黄盛俊, 柴田隆史, 河合隆史, 中村哲也, 岸田洋明	“セカンドライフ環境下での3Dシアター構築への取り組み”		
学会名	開催地	発表年月	
2007年度GITS/GITI公開研究発表会	日本	平成19年10月	

発表者名	発表標題		
安藤紘平	“早稲田大学、学生育成のためのセカンドライフ利用”		
学会名	開催地	発表年月	
仮想世界首脳会議・バーチャルワールドサミット	日本	平成19年10月	

発表者名	発表標題		
近藤浩介, 金光永煥, 中里秀則, 星合隆成, 富永英義	“BitTorrent を用いた依存ジョブ群の分散実行のためのファイル転送手法”		
学会名	開催地	発表年月	
2008年電子情報通信学会総合大会	日本	平成20年3月	

発表者名	発表標題		
------	------	--	--

プロジェクト番号

07S004

秋元 良仁, 村田 智紘, 亀山 渉	“博物館用メタデータスキーマ間における類似性発見方式の基礎的検討”		
学会名	開催地	発表年月	
情報科学技術フォーラム FIT 2008	日本	平成20年9月	

発表者名	発表標題		
Supheakmungkol SARIN, Wataru KAMEYAMA	“Enabling Diversity in Image Retrieval Task using Clustering Approach with Commonsense Knowledge”		
学会名	開催地	発表年月	
情報科学技術フォーラム FIT 2008	日本	平成20年9月	

発表者名	発表標題		
Supheakmungkol SARIN, Wataru KAMEYAMA	“Tageting Diversity in Photographic Retrieval Task with Commonsense Knowledge”		
学会名	開催地	発表年月	
Proceedings of CLEF 2008 Workshop	デンマーク	平成20年9月	

発表者名	発表標題		
片岡宏仁	“デジタルシネマにおける、ブルーバック/ノンブルーバック合成適合度評価とそのデータ作成”		
学会名	開催地	発表年月	
早稲田大学 GITS/GITI 公開研究発表会	日本	平成20年10月	

発表者名	発表標題		
大屋哲男, 樋口真嗣	“日本映画の特殊効果/VFX テクニックの魅力”		
学会名	開催地	発表年月	
DIGITAL CONTENT EXPO 2008	日本	平成20年10月	

発表者名	発表標題		
村田 智紘, 秋元 良仁, 亀山 渉	“Web リソースからのオントロジ自動構築法の基礎的検討”		
学会名	開催地	発表年月	
情報処理学会, デジタルドキュメント研究会	日本	平成20年11月	

発表者名	発表標題		
Mutsumi Suganuma and Shigekazu Sakai	“Effect of body posture on perceived distance of image presented on a portable display.”		
学会名	開催地	発表年月	

プロジェクト番号

07S004

6th annual conference of Asia Digital Art and Design Association	韓国	平成20年11月
--	----	----------

発表者名	発表標題		
安藤紘平	“ネットワークを利用しての先端統合制作システム研究の背景と概要”		
学会名	開催地	発表年月	
高度化推進事業研究発表会	日本	平成20年12月	

発表者名	発表標題		
亀山渉	“次世代コンテンツ配信研究”		
学会名	開催地	発表年月	
高度化推進事業研究発表会	日本	平成20年12月	

発表者名	発表標題		
河合隆史	“メタバースにおける立体映像表現の試み”		
学会名	開催地	発表年月	
高度化推進事業研究発表会	日本	平成20年12月	

発表者名	発表標題		
坂井滋和	“高精細CGによる科学教育映像制作の事例”		
学会名	開催地	発表年月	
高度化推進事業研究発表会	日本	平成20年12月	

発表者名	発表標題		
高木真一	“先端映像統合制作のためのネットワークシステムの研究”		
学会名	開催地	発表年月	
高度化推進事業研究発表会	日本	平成20年12月	

発表者名	発表標題		
片岡宏仁	“デジタルシネマにおけるノンブルーバック・動き追随合成に関する研究”		
学会名	開催地	発表年月	
高度化推進事業研究発表会	日本	平成20年12月	

プロジェクト番号

07S004

発表者名	発表標題		
浦野義頼, 中里秀則	“ネットワークを利用しての先端統合制作システムの今後の展望”		
学会名	開催地	発表年月	
高度化推進事業研究発表会	日本	平成20年12月	

発表者名	発表標題		
安藤紘平, 樋口真嗣, 尾上克郎, 大屋哲男, 高木真一	“映画『隠し砦の三悪人』、『私は貝になりたい』などによる先端映像統合制作実証実験”		
学会名	開催地	発表年月	
高度化推進事業研究発表会	日本	平成20年12月	

発表者名	発表標題		
Supheakmongkol SARIN, Wataru KAMEYAMA	“Raw Relationships in Aesthetic Photos by Optical Features”		
学会名	開催地	発表年月	
電子情報通信学会 2009 総合大会	日本	平成21年2月	

発表者名	発表標題		
坂井滋和	映像産業を変えるコンピュータ・ネットワーク		
学会名	開催地	発表年月	
福岡情報処理産業協会 (FISA)	日本	平成21年2月	

発表者名	発表標題		
山口 雄大, 中里 秀則, 富永 英義	高画質ストリーミング配信を実現するための TCP 制御方式の検討		
学会名	開催地	発表年月	
2009 年電子情報通信学会総合大会	日本	平成21年3月	

発表者名	発表標題		
大谷 佳裕, 李 吉憲, 金光 永煥, 中里 秀則, 富永 英義	P2P-grid における安定なチェックポイントシステムの提案		
学会名	開催地	発表年月	
2009 年電子情報通信学会総合大会	日本	平成21年3月	

発表者名	発表標題		
Kok-Meng Ong, Wataru Kameyama	“ Video Summary Based on Human Bio-signals -Evaluation of its Applicability to First-Time Viewers”		

プロジェクト番号	07S004
----------	--------

学会名	開催地	発表年月
Proc. of 2nd International Symposium on Aware Computing, SS 2-2	台湾	平成22年11月

発表者名	発表タイトル	
Hongyan Gao, Hidehiro Kanemitsu and Yoshiyori Urano	A User-Adaptive Symbol Presentation with AHP	
学会名	開催地	発表年月
Proceedings of 1st International Conference on Applied Bionics and Biomechanics (ICABB-2010)	日本	平成22年10月

発表者名	発表タイトル	
安藤紘平	“Vital Signals : 日米初期ビデオアート上映会－芸術とテクノロジーの可能性”	
学会名	開催地	発表年月
映画『Oh! My Mother』研究発表	日本	平成22年5月

発表者名	発表タイトル	
安藤紘平	“Vital Signals : 日米初期ビデオアート上映会－芸術とテクノロジーの可能性”	
学会名	開催地	発表年月
映画『Oh! My Mother』研究発表	日本	平成22年9月

発表者名	発表タイトル	
安藤紘平	「映像作家にとってのデジタルコンテンツと文化」	
学会名	開催地	発表年月
日本知財学会 2010年度秋季シンポジウム「デジタルコンテンツの時代」	日本	平成22年11月

発表者名	発表タイトル	
安藤紘平	“GITS/GITI 研究発表会 早稲田大学 安藤紘平研究室作品上映会”	
学会名	開催地	発表年月
GITS/GITI 研究発表会	日本	平成22年12月

発表者名	発表タイトル	
安藤紘平	“CON-CAN Movie Festival 安藤研究室カンヌ国際映画祭凱旋上映会”	
学会名	開催地	発表年月
GITS/GITI 研究発表会	日本	平成22年12月

プロジェクト番号

07S004

発表者名	発表標題		
Yoshiyori Urano	Building Lifelong Paradigms for Seniors, -ICT Supports for Senior's Social Participation-		
学会名	開催地	発表年月	
The 7th International Conference on IT in Asia (CITA' 11)	Kuching, Malaysia	平成23年7月	

<研究成果の公開状況> (上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

【シンポジウム】

高度化推進事業研究発表会, 早稲田大学小野梓記念講堂 (2008年12月)

【インターネット】

尾上克郎, 大屋哲男, “映画『私は貝になりたい』早稲田大学芸術科学センターでの先端映像実証実験”, 毎日映画コンクール WEB (2008年11月)

安藤紘平, 樋口真嗣, 尾上克郎, 大屋哲男, 高木真一 “映画『隠し砦の三悪人』、『私は貝になりたい』などによる先端映像統合制作実証実験”, 毎日映画コンクール WEB (2008年12月)

安藤紘平, “東宝—早稲田大学連携プロジェクト、画像ネットワークを利用した先端映像システムの研究・実証実験”, 毎日映画コンクール WEB (2009年1月)

安藤紘平, 瀬川徹夫, “北京電影学院との共同制作『禅武合一 少林功夫』完成”, 毎日映画コンクール WEB (2009年2月)

早稲田大学国際情報通信研究センター ウェブサイト上にて本取組の研究成果を公開
<http://www.giti.waseda.ac.jp/GITI/kouido/>

<これから実施する予定のもの> なし

13 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果があれば具体的に記入してください。

安藤紘平, “東宝—早稲田大学連携プロジェクト、画像ネットワークを利用した先端映像システムの研究・実証実験” TOHO STUDIO NEWS 007-01 (2009年2月)

高木真一, “画像ネットワークプロジェクト” TOHO STUDIO NEWS 007-02 (2009年2月)

大屋哲男, “東宝スタジオ画像ネットワークを利用した可能性と DI の現状” TOHO STUDIO NEWS 007-02 (2009年2月)

14 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

該当なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

<「中間評価時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

「外部評価体制の整備は必要と思われる」との指摘があった。

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

留意事項についての対応策としては前述のとおり、東宝、東宝スタジオ、ソニーPCL、ピクチャーエレメント、マリノポスト、東京現像所、モーターライズ、イマジカ、オムニバスジャパン、白組、エムソフトで構成される『閉域ネットワークシステムおよび産学連携の映像製作プロジェクト』委員会を編成し、2011年3月3日に現在の研究成果に対する評価および今後の当システムの留意事項に関するご意見をいただいた。これらについて、下記にまとめる。

- 外部企業とのネットワークシステム構築による新しいワークフローによるコンテンツ制作は、極めて独自性があり、映像産業にとっても大変有意義な事業として評価できる。

- また、地場の映像産業の育成、若い人材の育成という目的に向けて、学生と地域市民、海外大学などとのコラボレーションによる共同映像制作活動が着実に行われ、成果作品がヴェネチア、カンヌといった第一線の国際映画祭などにおいて評価されたことは、極めて大きな具体的成果に結びついている。
- 『太平洋の奇跡』『のぼうの城』などで実験試用された、外部から閉域網へのデータ伝送機能は、これからの映像制作にとって極めて有用なシステムであり、是非、実用化の具体的方法をシミュレーションしてほしい。
- また、この伝送は上り回線のみでのテストであって、下りには対応していないが、将来的には、下りにも対応を希望する。
- 高度化推進事業は、本年度で終了するが、このネットワークシステムは、コンペティター企業の垣根を越えて有用なシステムであるから、この委員会構成企業を中心に、今後の運用を考えたい。

なお、上記の第三項目以下については、東宝、エムソフト、早稲田大学を中心に、今後の具体的な方法を自力で考えることで、意見が集約された。